

地域ボランティア
プログラム
「松木日向緑地見学と
里山に関する座学」
2017/10/14



生と共同で実施しました。

緑地の見学では、管理されている竹林と管理せず放置されている竹林の両方を見学し、学生たちは太陽の光の入り方や地面の様子、周りの植物の生え方など、その違いに驚いたようでした。また、キャンパス内にこのような広大で豊かな緑地があることにも驚いた様子でした。

見学後は、教室に移動し、里山についての座学やディスカッションを行いました。この活動のアドバイザーである加藤英寿先生より、里山の定義や松木日向緑地の現状と課題についてお話いただいた後、「これから里山とどう関わってきたいか」「竹をどう活用していくのがよいか」など、全体でディスカッションをしました。里山のあり方や、その利活用とコスト面の課題など、多様な視点から白熱した議論が繰り広げられました。

参加した学生の声

- 首都大の中にこれだけ自然あふれる空間があったことに一番驚いた。そして、管理されている竹林とそうでない竹林を見比べて、管理する必要

性を切実に感じた。

- 竹林の広がる速さと間伐のスピードが追いついていないことを実際に木々の間から生えた竹を見ることが実感することができた。
- 竹林整備の活動ができなかったことは残念だが、改めて知識として緑地が抱える課題・現状などを知ることができて、今後の活動へのやりがいにつながった。
- 私たちはボランティアで竹林の保全活動に携わるが、一方で、活動の継続性について考えると、コストにも目を向けた活動が、より良い活動にもつながるのではないかと思った。
- この緑地の存在自体を知っている人がこの大学には少ないと思うので、何らかの形で里山をアピールできればいいなと思った。

今回の活動を通して、実際に自分の目で竹林の状況を見ることで、座学で得た知識と結びつけて理解を深めることができたようです。



松木日向緑地の竹林を見学している様子

10月14日（土）、首都大学東京南大沢キャンパス内にある松木日向緑地にて、地域ボランティアプログラムの活動を行い、学生13人が参加しました。当初は、竹林整備活動を予定していましたが、あいにくの雨天のため、これからの活動場所である松木日向緑地の見学と里山に関する座学を行いました。今回の活動は、教養科目である「多摩の里山学」の受講

